



質問 第3四半期累計の純利益は、通期予想に対して79%の達成率だが、第4四半期について市況要因以外に不安要素はあるか。

回答 エネルギー関連では、探鉱費等のコスト増を見込んでいる。また石炭と鉄鉱石ではサイクロンの影響による数量減を考慮している。現時点で、その他大きな不安要素はないと見ている。

質問 今期は配当性向23%を約束されているが、新中期経営計画において、柔軟な対応、例えば利益が減った場合には配当性向を上げる等を期待するが、どのように考えるか。

回答 新中期経営計画は現在策定中であり、これから検討していくことなのでお答え出来ないが、株主還元を重視して経営にあたる考えであることに変わりはない。

質問 今後の投資スタンスは。今期については、資源分野では既存権益の拡張を中心とし、非資源分野では投資規律の厳格化の話が出たが、来期も投資方針に変わりはないか。また、今期、非資源分野においては大口の減損を計上したが、どのような方策をとるのか。

回答 減損を計上したことは誠に遺憾である。投融資方針については、フリーキャッシュ・フローがゼロか黒字になるよう、均衡させるようにしていきたいと考えている。利益計画にもよるが、今期のネットの投資支出が当面のイメージと考える。その前提で考えると、資源分野については、既存権益の拡張に加え、モザンビーク LNG 案件のような探鉱から参加する新規案件の取得も合わせてやっていきたいと考えており、その意味では資源分野の比率が高まる可能性はある。非資源分野については、既存案件の果実化を進めながら、新規案件はしっかりと選別して実行していきたい。

質問 第3四半期の米州の減速要因及び今後の見通しは。

回答 WPI (Westport Petroleum) が市況低迷によるマージン悪化で減益となったことが大きな要因である。第2四半期において、MRE (MBK Real Estate) がシニアリビング案件の売却益を計上した反動減もあった。

質問 「その他、調整・消去」がマイナスとなっているがその要因は。

回答 第3四半期に投資有価証券の評価損の計上があった。

質問 石炭は第3四半期の生産量が270万トンと直近過去最高となったが、足元の操業の状況は。持分生産量予想の通り、今期900万トン、来期1,100万トンの達成は期待出来るか。

回答 第3四半期は生産好調だった。第4四半期は例年悪天候の影響を受ける傾向があることから、減少の可能性は考慮する必要はあるが、生産数量は計画を達成したい。

質問 リン鉱床開発プロジェクトに関し拡張の報道があったが、拡張を実施することにより本格的な収益の立ち上がりは遅れるか。

回答 リン鉱床開発プロジェクトは、長期的に生産能力を拡大したいので、拡張を検討していくことになる。まず、第一段階としての生産能力 390 万トンから先の生産能力拡張については機関決定していない。足元の生産立ち上がりは順調であり、生産能力に対して 250 万トン前後の生産は出来ている。立ち上げ当初で現状は生産コストがかかっているが、オペレーションが安定してくれば、コストを抑制出来る。まず足元のオペレーションを固めることと、長期的な拡張を両睨みで取り組んでいきたい。

質問 Bussan Auto Finance（以下 BAF）の現状と見通しは。第 3 四半期業績が第 2 四半期より改善しているが、最悪期は脱したということか。

回答 BAF は、2009 年以降の（ヤマハと）ホンダとの競争激化、販売金融会社間の過当競争により業績が悪化している。遅延債権率や貸倒損失の増加が原因。債権の良質化を図るべく、量より質に方針を切り替えて、審査・回収の改善に取り組んでいる。遅延債権比率は改善傾向にあり、2013 年 3 月期の通期黒字回復を目指している。

質問 ガス価格が低迷し、Mitsui E&P USA は赤字が続いているが、Marcellus シェールガスの状況は。減損リスクはあるか。現状のガス価格では採算性は厳しいか。

回答 Marcellus シェールガスプロジェクトに関しては、権益取得費用の対価として開発コストを 14 億米ドルまで当社が Anadarko に代わり負担することとなっている。初期期間は減価償却費負担が重いことから赤字で推移することはもともと想定していたが、足元のガス価格は想定を下回っており、現状収益は想定以下である。計画を見直しつつ減損テストも行っているが、減損を実施する状況には至っていない。償却が進めば利益が出ると見ている。

以上